



発行：高齢者年NGO連絡協議会事務局

住所：〒140-0004東京都品川区南品川5-3-10-5F

TEL03-5461-0839 FAX03-5460-9820

取組進むイベント部会と憲章部会

・・・両部会とも6月に大きな山場・・・

高連協活動を支える2つの部会——イベント部会と憲章部会が共に大きな山場を迎えようとしている。15か月キャンペーンである国際高齢者年も7か月半を過ぎ、ちょうど折り返し点に到達した。これからは後半の盛り上がりに向けて、加盟団体の自主的参画をいかに実現できるかに、高連協活動の成否がかかっている。

スケジュール的にみても、9月15日の敬老の日、10月1日の国際高齢者の日などを見据え、夏期休暇を念頭に入れると、まさにここ2か月ですべての方向が定まるといって過言ではない。両部会ともこのような基本認識にたって、このところ精力的な活動を展開している。以下にその現状を報告する。

☆イベント部会

2月発行の高連協ニュースでも報告のとおり、イベント部会の任務はイベントマップを作成し、各種イベント計画を調整して全体の流れを作り出し、さらには高連協力独自の、あるいは官民合同イベントの可能性を追求すること。そのような目的意識のもとに、部会が精力的に取り組んだ結果、着々と成果を上げつつある。

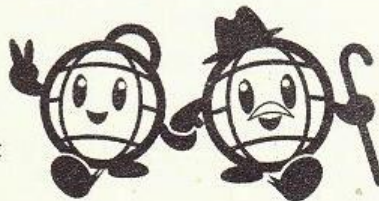
その一例として官民のイベント協力がある。労働省は9月20日・21日の両日、アクティブエイジングの視点から高齢者の就業・社会参加を、厚生省は10月14日、多面的に介護問題を、そして総務庁は12月14日、国際高齢者年の総仕上げの観点から、それぞれ大規模な国際シンポジウムを計画している。高連協はこれらのすべてに協賛・協力の形で関与し、もしくはゲストスピーカーの来日を活用し自前のイベントを企画するなど、まさに協議会設立の目的に沿う形で活動を展開し、官民協力の実を上げつつある。

今後の課題としては、4大テーマのうちまだ見えてこない生活環境（バリアフリー・ユニバーサルデザインなど）のイベントの掘り起こし、更には高連協主導の会員団体合同イベントの具体化などがあげられる。

☆憲章部会

当初の懸案だったスローガンの策定が予定通り3月末に終了したことは、既報の通り。「すべての世代でつくろう ふれあい社会」の最優秀作と優秀作2編を効果的に活用することが今後の課題といえる。

9月の敬老の日を目指して取組んでいる憲章作りは、7回にわたる部会による素案作りもいよいよ最終段階。定例会に示したあと、フリーサロンや出状により各団体の意見を集約し、最終的に高齢者憲章を策定する。



(総務庁マスコットキャラクター)

バリアフリー協会

(財)社会教育協会

☆活動のねらい

人は年齢とともに、目の障害や耳の障害あるいは手足の障害など「老化による加齢障害」が生じてくる。もちろん先天的に障害を持つ人や、交通事故、妊婦など一時的な障害者もたくさんいる。

これら障害ある人々が健常者ともども「自立した快適な生活」を送るため、われわれは、「バリアフリー商品やサービス」の開発・普及、そして啓蒙運動を進めていきたいと考えている。

☆アピールポイント

*バリアフリー協会は、商品やサービスを整理するために、加齢障害を次の6つのカテゴリーに分類してみた。

視覚障害、聴覚障害、言語・口腔・嗅覚障害
上肢障害、下肢障害、そして知的障害。

*まず最初の運動は、「人は社会との接点を持つことにより生き生きとする」との考えから、英国にある運動を建設省と共に導入し、「タウンモビリティ」として命名、展開している。大手量販店や各地の商店街などで既に導入され、十分なる成果が得られた。

*次いで、難聴者を対象に、「骨伝導技術を利用したミニコンサート」の開催。途中聴覚障害者が涙を流して聴き入っている。

*さらに、日本経済新聞社と協力し「バリアフリーガイドブック」の出版。(毎年、2万部を発行。)

*独自の活動として「ホームページ」の掲載(<http://www.bfa.gr.jp/>)。年々人気のサイトとなり、現在月間約4万件以上のヒット数に達している。

*今後は視覚障害(特に白内障)および上肢障害に関連する運動を開発しようと計画。

*一つ一つの運動を通じて民間企業を呼び込み、「弱者救済・囲い込み」の運動から脱却し、「儲かるプログラムの開発」が必要な時になってきたことを実感している。

☆活動の概要

*大正14年(1925年)社会教育の普及推進を目的に文部省から認可された。

*機関誌=大正15年『社会教育パンフレット』を発刊。のち『国民』、『生涯フォーラム』と改題されて現在に至る。

*生涯学習に関する調査研究=地域・企業における高齢者活性化、環境とエネルギー、独創性、心の時代へのアプローチ、などをテーマに調査研究し、報告書作成。

*全国生涯学習まちづくり研究大会=文化・芸術、ボランティア、環境、情報化などをテーマに、平成3年度から年1回、府県を回りながら開催。報告書を作成配布。

*出版活動=『成人手帳』『目で見る公職選挙法』『生涯学習シリーズ』などを刊行。

*まちづくりリーダーの養成事業=全国生涯学習まちづくり研究会と共催で実施。

*歴史能力検定試験=「過去に学び、未来をひらく」をうたい、日本史・世界史・歴史基本の3教科につき平成9年度より実施。

*生涯学習講座=分室・日野社会教育センターで、乳幼児から高齢者迄の各世代を対象に、文化、芸術、健康、スポーツなど広範囲の講座を展開。

☆アピールポイント

高齢社会と国際化をにらんで、世界に通用する心豊かな人を育てるために、「いつでも、どこでも、だれでも」学べる生涯学習社会の実現をめざす。

☆高齢者年への取組

機関誌『生涯フォーラム』で高齢社会の問題点、政府や民間団体の取組、国際比較、個人としての生き方などをとりあげている。

特に、高連協加盟団体の行事は積極的に紹介していきたい。

(社) ビューティフル エージング協会
(BAA)

☆設立の趣旨

中高年者が、自立してより美しく生きること (Beautiful Aging) ができる社会づくりを目指して、民間企業がネットワークを組んで主体的に対応するために発足した。

☆活動の概要

＊事業運営委員会の活動

会員企業の人事労務部門の専門家集団により、4委員会を設置して調査研究を行い、各種報告書を発行している。

＊人生設計アドバイザー養成講座の開催

企業人の生きがいづくりや人生設計の個別相談に対応でき、かつライフデザイン研修などの企画、運営ができる「人生設計アドバイザー」を養成し、協会で資格認定している。

＊イブニングセミナー、BA講演会の開催

有識者、学識経験者を講師陣に迎え、セミナーを年6回、講演会を年2回開催中。

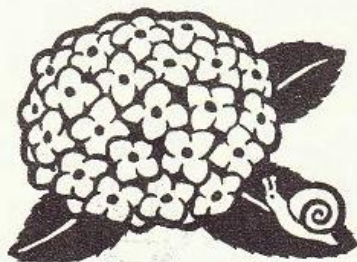
＊季刊誌、BA情報源の発行

ビューティフルエージングの考え方を普及啓発するための雑誌を年4回発行。

また、中高年社員や退職者が手元において便利で役立つ情報を掲載した手作りの冊子 (162頁、800円) を発行している。

＊異業種企業のOB交流の推進

会員企業のOB会を中心に、囲碁大会、工場見学会、パソコン教室、歌舞伎鑑賞会、テニス大会などの各種イベントを開催している。



(社) 日本老年医学会

☆活動の概要

＊設立目的：老年医学並びにその関連領域の進歩向上を図り、国民の健康と長寿を増進し、学術文化の発展に寄与する。

＊沿革：昭和34年に設立され、以来40年にわたり老年病に関する学術集会、学会誌の発行を実施。

現在の会員数は6425名。

☆高齢者年への取組

①公開シンポジウム：介護保険と高齢者医療
内容：内外からの8名の講演者により、介護保険制度の内容や問題点、諸外国の介護福祉制度からみた意見や提言などが論じられる。

日時：1999・6・18 (金)
13:30—16:10

場所：国立京都国際会館アネックスA

参加費：無料

申込み方法：往復はがきで下記に申込む。

〒606-8507

京都市左京区聖護院川原町54

京大付属病院老年科 第41回日本
老年医学会学術集会公開シンポジウム
L係

②市民公開講演会「おとしよりの介護と医療
—しあわせに天寿を全うするとは—」

内容：6人の講演者により終末期医療の目標
やあり方が論じられる。

日時：1999・9・11 (土)
10:00—15:30

場所：東京大手町JAホール

参加費：無料

申込み方法：はがき又はFAXで下記に。

〒113-0034

東京都文京区湯島4-2-1 杏林ビル

社団法人日本老年医学会

第4回市民公開講演会係

FAX 03-3814-8606

(財)日本レクリエーション協会

☆活動の概要

昭和22年に設立され、戦後の荒廃した社会の中で、フォークダンスなど、誰もが手軽にできる楽しさを提供することから始まった。その後高度成長期には、職場でのレクリエーションや生涯スポーツの普及、高齢社会へ向けて福祉分野でのレクリエーション活用などに取り組んできた。

現在は、地域でレクリエーションを普及したり余暇活用を支援する人材の養成と、さらに生涯スポーツの普及団体や、各県と400を超える市区町村に設立された地域レクリエーション協会との連携を事業の中心に据え、情報や用具の提供なども行っている。

☆アピールポイント

最近の活動は「遊び」や「楽しみ」といっただれでもが肩肘をはらずに参加できる良さを活かし、社会的な課題にアプローチすることを試みている。

例えば、里山や身近な講演の自然環境を保全したり、高齢者・障害者の生きがいを引き出されるような場を地域に作ったり、子育てに悩む母親を支援するなどの課題に取り組む際に、「楽しみ」の要素が多く市民を巻き込み、効率や経済性が問われない「遊び」の中で集まった人たちの持っている技術や特異なことが活かされる。そうした「遊びの場・機会」を広げようとしている。

☆高齢者関連の取組

高齢者施設で利用者の楽しみづくりを支援する「福祉レクリエーションワーカー」を養成したり、施設職員対象の研修を実施する。昨年度から始めた「デイサービスでのレクリエーション・ボランティア推進事業」では、高齢者の「得意」を引き出すコーディネーターづくりを目標にしている。

(財)ジョイセフ

☆活動の概要

*ジョイセフは人口・家族計画分野での国際協力を行うNGOで、1968年に発足。わが国において最長の歴史と最大の実績を有する、民間の人口・家族計画・母子保健国際協力専門機関である。

*ジョイセフは、特に1974年以来「地域に根ざした住民参加による人間的家族計画の推進」を提唱し、この思想に基づく「インテグレーション・プロジェクト」(通称IP)を、現在までにアジア・アフリカ・中南米の25カ国で推進してきた。

*現在では、IPの経験を積んだ国が、他の途上国に対して経験に基づくノウハウを提供する、南南協力も行われるまでになった。

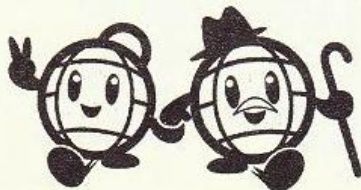
☆高齢者年への取組

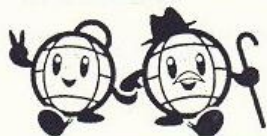
*ジョイセフでは1996年より4カ年計画でUNFPA委託により、第3次アジア地域高齢化プロジェクトを実施している。

(1996-1999)

- ・テーマが“世代間を超えて”の視聴覚教材「チャリスマの宝箱」の制作
- ・アジア4カ国における、「高齢化問題国内フォーラム」の開催(中国・フィリピン・ネパール・タイ)
- ・アジア地域高齢化ニュースレターの発行

*21世紀には、急増する高齢者のうち全体の50%以上は、アジア地域が占めることになる。ジョイセフの、これまでの人口高齢化プロジェクト実施の経験をもとに、アジア地域の政策決定者、行政責任者に対して、人口高齢化への理解と関心、そして、この分野での政策立案の促進をめざしている。





発行：高齢者年NGO連絡協議会事務局

住所：〒140-0004東京都品川区南品川5-3-10-5F

TEL03-5461-0839 FAX03-5460-9820

「高齢社会研究セミナー」を開催

・・・6月22日総務庁と高連協が共催・・・

去る6月22日、新装なった日本都市センター会館（千代田区平河町）において、国際高齢者年記念「高齢社会研究セミナー」が開催された。これは、総務庁の企画に高連協が全面的に協力する形で実現したもので、高連協メンバー・地方自治体・ジャーナリスト・高齢者の代表など、ふだん高齢化問題に携わる人々150名が参加して行われた。

総務庁高齢社会対策室に加え、高連協からは主に次ぎのメンバーが参画する形で、この共催が実現した。エイジング総合研究センターが事務局として、プログラムおよび統計・資料集の作成、当日の運営、さらには今後のレポート作成を含め総務庁に全面的に協力。また高連協両代表のうち、堀田代表が基調講演、相原代表が閉会挨拶を担当した。さらに5つの分科会のうち4分科会で高連協の役員がコーディネーターをつとめ、また加盟団体の約10名が、スピーカーや討議参加者として参画した。

セミナーの冒頭は、阿部正俊総務政務次官より「成熟社会を創造する」と題しての基調挨拶。「昔の人生50年時代に比べると、人生80年時代の今は‘成人人生倍増社会’。高齢化問題は年寄り対策ではない。高齢者の自己決定を基本に、公的機関、NGOなどの民間、家族など社会全体が一体となって考えなければならない。」と強調した。

次に午前中2時間にわたり、2つの基調講演。

下河辺淳先生は「21世紀の高齢者像」と題して講演、多面的な切り口から、あるべき高齢者像を洒脱なユーモアを交えて浮き彫りにした。その中での幾つかの示唆を拾うと、「65歳以上を一律に高齢者とくくるのはおかしい話。例えば高齢者は全人口の10%とか考えたのがよいのでは?」「人生70万時間。寝て起きて働いても、残る時間は約20万時間。何事も2万時間やれば人に誇れる。やれる時間はいっぱいある。働くにしても、同じところで15年働いたら退職金でなく転職金をもらい、人生3回違った仕事をしたら人生また楽しからずや?」。そして最後に「NPO・NGOは、ヒマとまごころだけではダメ。経営マインドが大切。」と辛口で結んだ。

一方堀田力先生は、国際高齢者年の理念を体して「全世代のための社会の創造」をテーマに講演。人類の歴史の中で今は価値観の転換期にあり、個を生かし、学び、働く(Work)ことで自己実現を図るため「全ての人の個を生かすふれあい社会の創造」が大事と力説。
1) こどもたちと高齢者との交流の大切さ 2) 高齢者の就労は高齢者の長所を生かして
3) 高齢者の社会参加は、やわらかいネットワークで 4) 青春時代にやりたかったことを高齢期の活動に生かす 5) 高齢者の介護と医療は、自立を基本に自己決定を尊重・・・などの視点から、深い理念と豊富な活動をベースに、持論を展開した。

午後は5分科会での討論と全体会議のあと、最後に相原三郎代表が挨拶。「国際高齢者年は自分に何をしてくれるかでなく、高齢者自らなにをなすべきかを考える機会。」と締めくくり、当日のセミナーを終了した。

(文責：横田、広報担当)

(社) 長寿社会文化協会 (WAC)

☆概要

目的：会員の創意工夫をもとに、中高年齢者の積極的な社会参加を促進するための諸活動を行うことにより、真に豊かな高齢社会（長寿社会）を実現する。

キーワード：ポイント・自立・ネットワーク

*会員の自主的・自発的な活動グループをポイントといい、ポイントの活動がWACを生き生きとした組織にしている。

☆具体的活動

◆本部が中心となって実施するもの

①機関誌「ふれあいねっと」発行（月刊）

による情報の収集と発信

②「非営利組織による『指定居宅サービス事業者』等の新設・運営マニュアル」などNPO組織への支援

③「長寿社会への提言」論文募集など、調査研究・シンポジウム開催

④高齢者疑似体験具「うらしま太郎」による高齢者理解の啓発事業

⑤ホームヘルパー養成研修講座の開催とその講師養成、在宅介護フォーラム開催など、在宅介護分野の基盤拡充支援

⑥他団体と協力し、「NPO法案、介護保険法案」の成立に努める

など、単なる調査研究を超える活動を展開。

◆ポイントが自主的に実施するもの

*楽しむ・・・健康麻雀・ハイキング・農園・芋煮会・オシャベリサロンなど

*学ぶ・・・ドライビングドック・パソコン教室・歴史散歩など

*支える・・・在宅介護活動・はげましあい

*繋ぐ・・・国内外の高齢社会関連団体や、WACポイント間の交流

☆高齢者年への取組

*WAC独自のシンポジウムを開催のほか、高連協参加団体との共同イベント開催。

*高連協事務局として高連協を支える。

(財) ぼけ予防協会

☆活動の概要

老人性痴呆症の予防・治療などの調査研究、社会的な介護体制づくり、介護家族への支援活動などを行い、希望に満ちた長寿社会の実現をめざそうと、毎日新聞社が創刊120年記念事業として提唱し、平成2年3月に設立された。

*シンポジウム・・・ぼけ予防の知識の普及・啓発のため東京と地方中核都市で毎年開催

*電話相談・・・平成4年に「ぼけ110番」開設。毎週月・木曜の10～15時、専門の相談員が無料に対応。今年6月にフリーダイヤル化（0120-654-874）

*調査研究・・・「痴呆症（ぼけ）老人を抱える家族全国実態調査」「オランダの高齢者医療と福祉」など

*支援活動・・・ぼけ老人を抱える家族の会に対する助成活動など

☆アピールポイント

シンポや調査・研究の成果を書籍化。書店で販売していないので 問合せは当協会へ。

（☎03-3216-4409）

*好評10カ条冊子・・・下記各々500円『ぼけ予防10カ条』・・・「転倒に気を付けよう頭の打撲はぼけ招く」など10カ条を専門家の討議によって一昨年に制定。

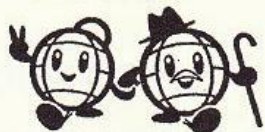
『ぼけ介護10カ条』・・・「自尊心支える介護で生き生きと」等10カ条を今春制定。

*協会報『れゆーな』・・・エスぺラント語のレューナ（若さ再び）より命名した、ぼけ情報誌。季刊。年間購読料1000円。

☆高齢者年への取組

協会の性格からいって毎年が「高齢者年」のようなもの。今年の地方中核都市シンポは、秋に新潟・松江、テーマは「介護保険」。





発行：高齢者年NGO連絡協議会事務局

住所：〒140-0004東京都品川区南品川5-3-10-5F

TEL03-5461-0839 FAX03-5460-9820

「高連協イベントマップ」を特集

・・・2～3頁に一覧表・・・

いよいよ本格的な夏の到来。景気の底も見え始め、日本各地で梅雨も明ける。夏期休暇や、お盆のふるさとUターンのなかで、ふだんと少し変わった、忘れかけていた光景が繰り広げられる。その形は人によってさまざまだが、どこか輝いて見える。

家族の絆、ふるさとの伝統・文化、コミュニティーの交流から、異文化との接触まで。こうした、ある意味で非日常的な体験は、高連協の皆さんで掲げたスローガン

すべての世代でつくろう ふれあい社会
を、一人ひとりが実践し、感じとる、またとない機会といえよう。

さて、昨年の10月の高連協誕生以来、「継続は力なり」をモットーに続けられてきた月一回の定例会は、7月の例会で一休み。9月に再び再開する。9月からは国際高齢者年の取組もいよいよ終盤戦。9月15日の敬老の日、10月1日の国際高齢者の日、さらに9月上旬のIFA（世界高齢者団体連盟）モントリオール大会、10月の国連総会などを核として、日本を含めた世界各地で多彩なイベントが予定されている。

そんな流れに呼応するかのように、高連協のイベント部会（和久井部会長）では、このほど9月から12月まで、終盤4か月間の「高連協イベントマップ」を作成した。詳細はこの高連協ニュースの見開き2～3頁にかけて収録したとおりである。一見すると普通のアンケート調査の集約と変わらないようだが、各会員団体相互間・イベント部会・定例会などの場や関係省庁との間で、調整し、呼びかけ、交渉して得られた成果である。その際わが国の「高齢者対策大綱」で述べられている分類、つまり、就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境の4本柱を軸にイベントの調整にあたった。

官民イベント協力着々具体化へ

9月以降も各省庁との協力関係が一段と強化促進され、高連協及び参加団体の活躍の場が得られることになった。詳細は次頁にゆずり、そのポイントは下記のとおり。

★総務庁（高連協窓口：エイジング総合研究センター）

- | | | |
|-------|----------------------|---------------|
| 9/15 | 「高齢社会に関する懇談会」 | 早稲田大学大隈小講堂(♠) |
| 10/1 | 「国際高齢者年中央記念式典」（都と共催） | 東京厚生年金会館 |
| 12/14 | 「国際高齢者年記念シンポジウム」 | 有楽町朝日ホール |

★厚生省（高連協窓口：国際長寿センター）

- | | | |
|-------|-----------------|---------|
| 10/14 | 「北欧5か国国際シンポジウム」 | 三田共用会議所 |
|-------|-----------------|---------|

★労働省（高連協窓口：高年齢者雇用開発協会）

- | | | |
|---------|-------------------|------------|
| 9/20・21 | 「活力ある高齢化国際シンポジウム」 | 京王プラザホテル |
| 9/22 | 「AARP次期会長との懇談会」 | 高年齢者雇用開発協会 |

(♠) 本件懇談会に関して、このたび総務庁より高連協に対し、正式に協力依頼あり。

高齢者年NGO連絡協議会イベン

団 体 名	イベント・タイトル	イベントの目的
高連協	AARP次期会長を囲む会	Mrs. Canja来日の機をとらえて、世界最大の高齢者ランティア活動などの実態と、そのマネジメント成功のポ
社団法人日本老年医学会	第4回「老年医学」市民公開講演会	終末期医療の目標、あり方につ
ワセダエイジングメッセ (参加団体)：(社)長寿社会文化協会、	はみんぐ倶楽部、ライフ・ベンチャー・クラブ (社福) テレビ朝日ネ	国民合意の老年者の終末期医療
	シンポジウム、フォーラム・・・「自覚する人生」 アクティブエイジングによる21世紀の新たな社会づくり	高齢社会を「高齢化対策」といったネガティブな観点から捉 時代の積極的な社会づくりとして捉えた「アクティブ エイ を中心に企業・行政・市民・地域・大学が語り合い、学び合
全国新聞連合シニアライフ協議会	国際高齢者年記念シンポジウム「共生社会の構築をめざして」 「触れ合い社会の構築をめざして」 三代介護体験キャンペーン	高齢者の生き方と介護の現場 世代間交流と高齢者の自立を 9月27日(月)～10月1日(金) 松江市特老 10月18日(月)～10月22日(金) 金沢市特老
(財)日本チャリティ協会	高齢者のはつらつカラオケコンクール 「老人」という言葉の調査と高齢社会に対する提言 子供が描いた絵画ギャラリー	新宿区大会 9月29日(木)12時～16時、大田区 9月15日(水)「調査結果の 10月11日(月)～10月24日(日)「提出期間」
(財)高齢者雇用開発協会	「活力ある高齢化」国際シンポジウム	神戸雇用サミットの Follow-up としてG8雇用政策担当 代表を加え、Active-ageing にかかわる具体的な取り組みについ
(財)さわやか福祉財団	国際高齢者年記念シンポジウム「高齢者の生涯学習と社会参加」 国際高齢者年記念シンポジウム及びセミナー シンポジウム「NPO・ボランティアによるふれあい社会の創造-4」 セミナー「介護保険と地域のたすけあい」	地域社会の中で、生涯学習を学んだ高齢者が、地域活動に参 するとともに、自らも生きがいを見つけ、高齢社会の創造づ シンポジウム：高齢者を含む、すべての世代が幸せに暮らせ 自治体は何をすればよいのか、どうネットワーク セミナー：介護保険と地域のたすけあいは車の両輪、自治体
(財)ぼけ予防協会	シンポジウム「ぼけ問題と介護保険」 ～あなたの老後を考える～	ぼけ問題を中心に国民誰もが老後の医療や保険、福祉に対す 機会にする
(社)ビューティフルエイジング協会	BA講演会 (予定) イブニングセミナー (予定)	国際高齢者年にちなんだテーマ、講師を選定し、特別講演会 「人生を楽しむ」をメインテーマとし、「心の持ち方」、「遊 れ3回ずつ開催予定
[東京都]		
(参加団体)：(財)さわやか福祉財団、(財)シリアルネサス財団、生活・福祉環境づくり21、(社)長寿社会文化協会、日本ウェルエイジング協会、はみんぐ倶楽部、(社)ビューティフルエイジ		
	国際高齢者年記念事業 記念式典、記念行事	「国際高齢者年」を契機に、本格的な高齢社会の備えとして、 活力ある高齢社会の創造、高齢者の自立と社会参加の促進な す。
(社)長寿社会文化協会	ワンダフルエイジングフェスタ	会員交流と高齢者の生きがい
日本ウェルエイジング協会	高齢者のための発明・工夫・デザイン コンクール	国際高齢者年関連事業として「 高齢者年賞」を設ける。
国際長寿センター	日本・北欧高齢化セミナー	北欧5か国の来日の機をとらえて、公開国際シンポジウムを 題に絞る、プランニング・質の評価・必要性の認定・費用と利
あどりぶ倶楽部 (シニア研究部会)	第1回シニアサミット	超高齢社会のシニアの自律と共 ともに考える。
(財)ダイヤ高齢社会研究財団	講演会「アクティブ・エイジングをめざして」(仮題)	高齢者が活力をもって社会参加 システムの構築について
高齢者協同組合 (日本労働者協同組合連合会)	国際交流集会 交響曲「第九」コンサート	アメリカ (AARP)、イギリス (エイジコンナシ)・イタ ジウム等を開催 高齢者による第九の合唱
(社)エイジング総合研究センター	国際高齢者年記念シンポジウム	国際高齢者年を総括する国際的シンポジウムの開催

シントマップ(99年9月以降)

99.7

内	実施時期、時間	会場、人員	主催、共催
高齢者団体であるAARPの組織運営・ポイントのポイントを学ぶ。	9月22日(水) 14時～16時	高齢者雇用開発協会 120人	主催：高連協
について講演と討論。 医療を考える。	9月11日(土) 10時～15時30分	J Aホール 450人	主催 協力：高連協
日福祉文化事業団			
ら促えず、すべての世代が関わる新しいエイジングの実現に向けて国境の世代の出会い。	9月12日(日)～9月15日(水)	早稲田大隈講堂、早稲田商店街	主催：早稲田大学周辺商店連合会 後援：総務庁、東京都、新宿区 他 協力：高連協 他
易	9月14日(火) 13時から16時30分	秋田キャッスルホテル	主催：秋田魁新報社他 協力：高連協
を考える	9月17日(金) 13時30分～17時	鹿児島県自治会館ホール	主催：南日本新聞社他 協力：高連協
養老人ホーム「うぐいす苑」他	10月4日(月)～10月27日(水)の間の5日間	福島市特養老人ホーム「福島恵風園」他	主催：(財)簡易保険加入者協会 協力：高連協
養老人ホーム「金沢朱鷺の苑」他	10月上旬～11月下旬の間の5日間	小平市特養老人ホーム「多摩新緑園」他	主催：高連協
田区大会 11月予定 12時～16時、世田谷区大会 11月19日(金) 12時～16時	主催：日本チャリティ協会、テレビ朝日福祉文化事業団 主催 後援：東京都老人クラブ連合会 主催 共催：東京新聞、東京中日スポーツ 後援：京王電鉄(株)		
の公表]	主催 後援：東京都老人クラブ連合会 主催 共催：東京新聞、東京中日スポーツ 後援：京王電鉄(株)		
京王線・京王井の頭線 車内提出	主催 共催：東京新聞、東京中日スポーツ 後援：京王電鉄(株)		
担当者に日・欧・米の有識者、国際機関について意見交換を行う	9月20日(月)、21日(火)	京王プラザホテル	労働省と共催 協力：高連協
に参加し、社会貢献し、地域を豊かに「はづくり」に参画する。	9月20日(月) 13時～16時45分	国立オリンピック記念青少年総合センター 200人	主催 後援：文部省 協力：高連協
はらせる社会にするために、個人、企業、ワークを組めばよいのか	11月25日(木) 26日(金)	早稲田大学構内 シンポジウム：500人 セミナー：200人	主催：さわか福社財団、ワセダエイジングメッセ他 後援：厚生省他 協力：高連協
自治体と市民団体の協働の在り方について	9月22日(水) 13:00～16:30 (予定) 10月19日(火) (予定)	新潟ユニゾプラザ 450人 松江市労働会館	主催：ほけ予防協会、毎日新聞社他
に対する心構えなどについて共に考える	10月(午後2時間程度)	未定 200人	主催
演会として開催予定	9月～12月2月(計6回、午後2時間程度)	愛宕山余護士ビル(1回30名)	主催
「遊びにたける」をサブテーマにそれぞれ			
シニア協会、ライフ・ベンチャー・クラブ			
として、世代間の交流と相互理解の促進、交流などを進めるための環境づくりを目指す	10月1日(金) 17時10分～19時50分 10月2日(土) 10時～16時 10月3日(日) 10時～16時	東京厚生年金会館大ホール 約2000人 都民広場、都民ギャラリー、都民ホール他	主催：総務庁、東京都、国際高齢者年記念事業実行委員会 協力：高連協
はづくり支援	10月9日(土)、10日(日)	品川のきゅりあん	主催 協力：高連協
て位置づけ、「国際	10月13日(水)、14日(木)、15日(金)	国際福祉機器展内 展示会、表彰式	主催 協力：高連協
ムを開催する。テーマを介護サービス問用と財政などについて、各国が報告する。	10月14日(木) 10時～13時	三田共用会議所講堂 270人	主催：厚生省、外務省、国際長寿センター 協力：高連協
と共生を団塊世代と	東京会場：10月14日(木) 13時～17時 大阪会場：10月26日(火) 13時～17時	日経ホール 600人 ドーンセンター 500人	主催：テレビ東京、テレビ大阪、シニアサミット実行委員会 協力：高連協
参加を可能にする	11月11日(木) 13:30～15:30	新丸ビル会議室 約200人	主催：(財)ダイヤ高齢社会研究財団 協力：高連協
イタリア、中国等から代表を招きシンポ	12月3日(金) 13時～12月4日(土) 17時	神奈川県立青少年センター・ホール 1000人	主催 協力：高連協
	12月5日(日) 14時～	東京国際フォーラム 500人	主催 協力：高連協
	12月14日(火)	有楽町朝日ホール 700人	総務庁、住友海上福祉財団と共催 協力：高連協

日本高齢・退職者団体連合

☆概要

労働組合OBで組織された高齢者市民団体。
1989年11月21日、日本の労働界全体の統一が実現し、「連合」、日本労働組合総連合会が誕生した。それに伴い退職者連合も1991年11月20日、中央組織及び地方組織が誕生した。会員数70万1000人。全ての高齢者を代表する気概で社会的諸制度を改革する信頼される社会的勢力となることを目指す。

☆具体的活動

- ①全ての自治体が、「高齢者に温かくおもしろいやりをもって共生する地域社会を創る」ための「高齢者憲章」を制定し、行政にいかしていくことを訴えている。
- ②高齢者の命と暮らしを守るため、政府自治体に対し、年金・医療・介護・福祉の改善を求める運動を重点的に行っている。
- ③毎年「敬老の日」に、退職者連合独自で「9・15全国高齢者集会」を開催し、全国の年金生活者5000人が集い、年金・高齢者医療・介護などの要求を集約して、政府に提出している。

☆高齢者年への取組

- *9月30日から10月9日にかけて、総勢47名で高齢者視察団を米国に派遣する。
- *主要スケジュールは下記のとおり。
 - 10/1 (国際高齢者の日) ニューヨーク 国連総会傍聴 国連大使面談
 - 10/4 ワシントン AARP訪問
 - 10/7 ロスアンゼルス 施設見学

国際長寿センター (ILC)

☆概要

高齢化問題を国際的な切り口で比較研究し、それをもとに人的交流・広報啓発・政策提言や研究者育成などの諸活動を推進するため、老年学の世界的権威、アメリカのロバート・バトラー博士の提唱に呼応し、厚生省と民間の協力により1990年11月に設立。
英文名の略称はILC。
International Longevity Center (ILC)

☆アピールポイント

- ①パートナーシップの各国への広がり
1990年に日米でスタートして以降フランス・イギリス・ドミニカが正式に加盟。さらにシンガポールなどにネットワークの輪を広げる気運があり「ゆっくり確実に」国際化の道をたどりつつある。
- ②設立の経緯から、ナショナルプロジェクトの一翼をにない、事務局を担当するなどの役割が期待されている。例を挙げると、
 - ・日米高齢化合同委員会(1993-1995)
 - ・政府少子化対策国際比較班(1997~1999)
 - ・日豪コミュニティケア研究(1998-1999)
 - ・日本・北欧5か国在宅ケア比較(1999)

☆高齢者年への取組

- *機関誌「プロダクティブ・エイジング」の国際高齢者年特別号(1999 SPRING)を発行
特集：伊部・バトラー高齢化を語る
- *海外向けに日本の高齢化・高齢化施策及び日本の高齢者団体を紹介のため冊子発行：
Japan, Aging Society and NGO Activities
(上記2つとも、日本語・英語版発行)

次号の高連協ニュース第10号は
8月を休んで9月発行予定です。
高齢者憲章特集を
予定しています。ご期待下さい。

